リスク時代を切り拓く ビジネススキル＆マネジメント情報誌
2009年9月15日発行　毎月15日発行　第24巻9号

Business Risk Management

ビジネスリスクマネジメント

September 2009 | 9

特集

「PDCA」のリスクマネジメント

新連載
ミドルマネジャーのための法律講座
下請法のポイント

【好評連載】

業界別リスクマネジメント講座
アパレル業界

「財務」リスクマネジメント講座
BS（貸借対照表）徹底活用術

「営業」リスクマネジメント講座
“サイレントセールス”入門（最終回）

ミドルマネジャーのための教養講座
ケインズ②

小山龍介のブックガイド
Broaden Your Horizon!

医療・介護リスク Q&A

乳幼児の事故を防ぐには

Q 私は、保健師として新生児や乳児のいる家庭への訪問指導を行っており、訪問先の保護者に対して乳幼児を育てる上での注意点をお伝えしています。そこで、乳幼児の事故を防止する上で基本となる注意点について教えてください。

A 乳幼児の死亡原因として、周産期の呼吸障害や乳幼児突然死症候群などとともに、不慮の事故が毎年上位にあがっています。それだけ乳幼児は、多くのリスクに取り巻かれているということです。そのようななか、保健師による訪問指導は、各家庭での事故防止に有効な取組みだといえるでしょう。

乳幼児の事故は、発育状況と密接な関係があります。図表に、発育状況別に起こりうる事故のうち、基本的なものをあげておきました。

このように、子どもの発育状況によって、起こりうる事故は違ってきます。逆にいえば、子どもの発育状況に配慮することで、事故を予測し、防止しやすくなるということです。

では、具体的にどのような防止策を講じればよいかというと、ポイントは事故の間接的原因となる環境・ハード面に目を向けることです。事故の直接の原因となるのは、もちろん乳幼児自身の様々な行動ですが、これは抑制すべきではありませんし、また抑制できるものでもありません。だからこそ、環境・ハード面の整備が大事になってくるのです。

環境・ハード面の整備とは、たとえば、誤飲を防ぐために乳幼児が口に入れそうなものは手の届かないところに置くようにする、ベッドからの転落を防ぐために転落防止柵を付ける、つかまり立ちした際モノが落ちたり倒れてきたりしないように家具はなるべく固定する、といったようなことです。大事なのは、子どもの性格や興味などにも注意を払い、それに応じた整備を行うことです。

なお、言うまでもないことですが、保護者にはいかに事故を防止するかということだけではなく、万が一事故が生じた際の対処方法についてもあわせて指導することが大切です。緊急時には誰でも慌てるものなので、わかりやすくパンフレットにまとめて配布するのも良い方法でしょう。

事故に限らず、乳幼児を取り巻くリスクはたくさんあります。大人のようなコミュニケーションがとれないだけに、リスクマネジメントには特別の配慮を払いたいものです。

子どもの発育状況	起こりうる事故	環境・ハード
首がすわる	溺水 誤飲、異食 火傷 窒息	浴槽 口に入るもの、ヨダレかけ（ヒモ） 湯（風呂など）、タバコ 寝具、ビニール袋など
寝返りを打つ、這う	転落、打撲、感電	ベッド等の家具類、コンセント
つかまり立ち	転倒	ベビーカー等、移動機、暖房器具
ひとり歩き	指詰め	ドア、建具、階段、家電製品 洗剤や薬品類、化粧品、刃物、
走る	衝突	遊具

PROFILE

株式会社フォーサイツコンサルティング/代表取締役社長

浅野 睦 Makoto Asano

丸井・プルデンシャル生命を経て、コンサルタントとして独立。業務改革、営業戦略、リスクマネジメントを中心に、一般企業から医療法人など、幅広くコンサルティング活動を展開。リスクマネジメント協会理事。近著に『変革期の介護ビジネス』（学陽書房）